

平成29年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110	伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する
施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる
施策の目標	すみだの歴史や文化に区民がふれることで、郷土に対する理解・愛着が深まり、さらに区民が将来にわたり伝統文化を継承、発展させ、文化財が大切に保護されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					77.0					80.0
実績	71.6									
指標名	「墨田区の歴史や文化を学んでいる」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					39.0					50.0
実績	24.1									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
<p>・北斎作品（浮世絵）は大変脆弱であり、文化財保存の観点からも長期の展示は不可能であることから、円滑な事業運営や運営経費圧縮のためにも、可能な限り自館の収蔵資料数を増やせるよう収集に努めていく。</p> <p>すみだ北斎美術館については、平成28年11月に開館し、来館者数は目標を大きく上回っている。今後も、北斎の魅力を伝える展覧会事業やイベント等の充実を図っていく必要がある。</p> <p>また、平成26年より開始した寄付キャンペーンについては、当初の目標額5億円を達成することができた。今後も、美術館の管理運営、資料収集等に充てることを目的に、継続して実施する。</p>	H28	2,126,437
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
A	すみだ北斎美術館を開館し、目標を大きく上回る来館者が訪れており、寄付キャンペーンは目標額（美術館開館までに5億円）を達成した。

4 今後の施策の運営方針

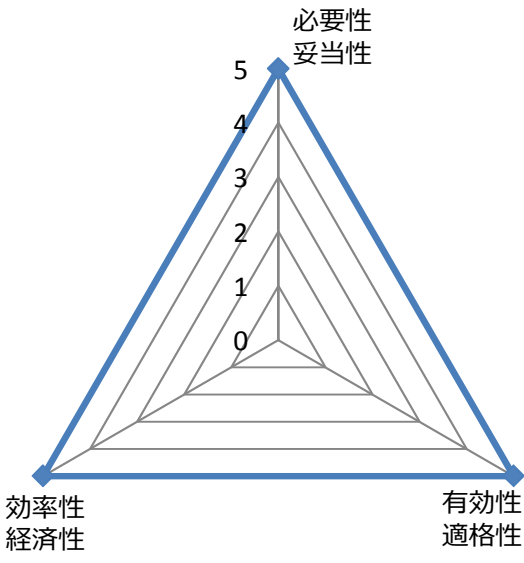
評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
「すみだ 北斎美術館」を区の文化創造や地域活性化につながる施設になるよう、資料の収集保存、展示、情報提供、教育普及の事業活動を通じて地域文化の継承と発展の場として運営するため、今後も計画的な資料収集と美術館運営及び北斎に関するPRを行っていく必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
・「すみだ 北斎美術館」の円滑な事業運営を行うとともに、引き続き資料収集や寄付キャンペーンを行っていく。また、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて、北斎及び北斎美術館について、海外に向けた情報発信を行っていく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳 出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	すみだ北斎美術館事業	2,126,437	本区で生まれた世界的絵師葛飾北斎を区民の誇りとして顕彰する美術館を開設するにあたり、建築、各種開設準備、PR事業、管理運営、寄付キャンペーンを実施する。	80,000人		現状維持
				177,707人		平成28年度
2	大江戸すみだ職人展事業	1,000	伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRすることで、市場における作品の付加価値が高まり、新たな文化芸術の発展につながる。	8,000人		改善・見直し(効果測定)
				8,769人		平成28年度
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

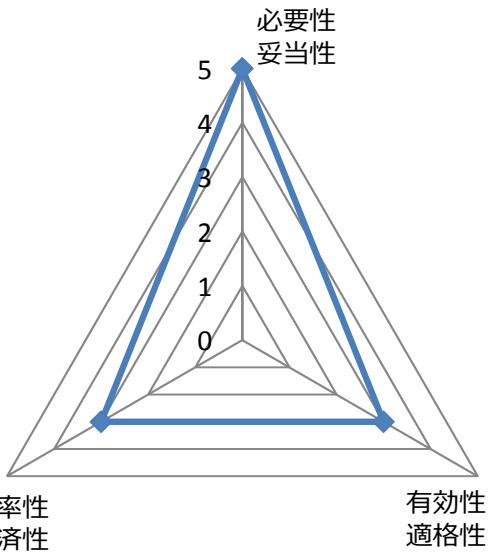
平成29年度 事務事業評価シート

施 策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる					部内優先順位	
事務事業	すみだ北斎美術館事業						1	
事業概要	すみだ北斎美術館の平成28年11月開館に向けて、建築、各種開設準備、PR事業を実施する。開館後も引き続き、PR事業を始め、資料収集、適切な管理運営、寄付キャンペーンを実施し、すみだと北斎のPR及び施設の充実を図る。						主管課・係（担当）	
							文化芸術振興課	
							文化芸術・国際担当	
施策への 関 連 性	本区で生まれた世界的絵師・葛飾北斎を区民の誇りとして顕彰するすみだ北斎美術館を開設し、区民が文化・芸術にふれる機会を創出する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	すみだ北斎美術館で行われる展覧会事業、教育普及事業等を通じて、区民が文化・芸術にふれる機会が充実し、郷土の文化等への理解が深まることから、区民ニーズがある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	すみだ北斎美術館の管理運営に関しては、指定管理者が行っていく必要がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	寄付キャンペーン寄付金額				単 位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		145000	37	目標	150,000	145,000	145,000	145,000
				実績	232,102			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	145,000	145,000	145,000	145,000	145,000	145,000
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	北斎美術館の管理運営、資料収集、展覧会事業等の充実を図るには、寄付を募る必要があるため。目標値については、管理運営費や資料収集等に要する費用見込みを基に設定。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	すみだ北斎美術館への来館者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		94000	37	目標	200,000	140,000	94,000	94,000
				実績				
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	94,000	94,000	94,000	94,000	94,000	94,000
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
区民をはじめ、区外及び海外からの来訪者が、どれだけ北斎の魅力を体感したかを図る指標となるため。※H28及びH29については、開館日の平成28年11月22日を起算とした1年間の来館目標。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,126,437							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

1 必要性・妥当性													
区民ニーズの有無	ある												
代替可能性の有無	ない												
区が実施すべき強い理由があるか	ある												
判断理由													
北斎生誕の地「すみだ」に開館した美術館として、本区が事業を実施する必要がある。													
2 有効性・適格性		<table><tr><th>必要性 妥当性</th><th>有効性 適格性</th><th>効率的 経済性</th><th>評価結果</th></tr><tr><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr></table>				必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果	5	5	5	5
必要性 妥当性	有効性 適格性					効率的 経済性	評価結果						
5	5					5	5						
事業の目的が施策に合致しているか	合致している												
指標は目標値を満たしているか	満たしている												
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある												
判断理由													
来館者数、寄付キャンペーンにおける寄付金額ともに目標値を達成している。													
3 効率性・経済性		<p>現状維持の上継続</p>											
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない												
実工程やコストに改善の余地がないか	ない												
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある												
判断理由													
美術館が地域活性化、産業・観光振興の拠点となるため、適切な管理運営を行っていく必要がある。													
中間・最終年度の講評	美術館開館後の来館者数は目標を大きく上回り好調に推移している。また、平成26年度に開始した寄付キャンペーンについては、開館までの目標額5億円を達成したところである。												
今後の方向性	現状来館者数は好調であるが、今後開館初年度の来館者数を可能な限り維持すべく、展覧会事業等の充実を図っていく。寄付キャンペーンについては、管理運営・資料収集・展覧会事業の充実・美術館を核とした文化芸術プロジェクトを展開していくため、今後継続していく。												

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる					部内優先順位	
事務事業	大江戸すみだ職人展事業						2	
事業概要	全国でも有数の「ものづくりのまち」として発展を遂げてきた墨田区において、伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRし、市場における作品の付加価値を高めていくことを目的として展示会を開催する。						主管課・係（担当）	
							文化芸術振興課・文化行事担当	
							5608-6180	
施策への 関 連 性	伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRすることで、市場における作品の付加価値を高め、新たな文化・芸術の発展につながる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	職人による実演や体験型ワークショップを通じて、墨田区の伝統工芸を学ぶことができる機会は貴重であるため展示会の来場ニーズがある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	文化施策が重要性を増す中、伝統工芸分野を通じて「ものづくりのまち」すみだをPRしながら、優れた技術・技能を今後に継承していく本事業の必要性は高い。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	開催告知チラシの配布戸数				単 位	戸
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		31,500	37	目標	30,000	30,000	30,000	30,000
				実績	31,100			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	31,000	31,000	31,500	31,500	31,500	31,500
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。 目標値は、配布戸数は限られた予算を考慮して設定する。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	展示会場への来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		9,000	37	目標	8,000	8,500	8,500	8,500
				実績	8,769			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	8,500	8,500	9,000	9,000	9,000	9,000
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,000							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 平成29年度以降は補助金額が減額となる予定である。				

1 必要性・妥当性		<div></div>											
区民ニーズの有無	ある												
代替可能性の有無	不十分												
区が実施すべき強い理由があるか	ある												
判断理由													
伝統工芸の固有の価値を大切にしながら、ものづくりの技術・技能を今後にしっかり継承する文化施策を、行政が担っていく必要がある。													
2 有効性・適格性		<div>効率性 経済性</div> <div>有効性 適格性</div> <table><tr><th>必要性 妥当性</th><th>有効性 適格性</th><th>効率性 経済性</th><th>評価結果</th></tr><tr><td>5</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>				必要性 妥当性	有効性 適格性	効率性 経済性	評価結果	5	3	3	3
必要性 妥当性	有効性 適格性					効率性 経済性	評価結果						
5	3					3	3						
事業の目的が施策に合致しているか	合致している												
指標は目標値を満たしているか	満たしている												
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない												
判断理由													
現時点では他課で実施されている事業との差別化が不十分なため、来場者のニーズに対する成果を十分にあげられていない点がある。													
3 効率性・経済性		効果測定及び改善・見直しの上継続											
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない												
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある												
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定												
判断理由													
コスト改善を図りながら事業を継続する中、補助予算額は開始当初よりも大幅に縮小している。しかし、実施方法を改善することで、より事業目的に沿った事業展開が期待できる。													
中間・最終年度の講評	産業振興課や地域教育支援課による「伝統工芸保存会」「パルティール」等への支援事業が存在しており、本事業を含め各々の役割が明確でないため、それぞれの事業効果が相殺されてしまっていると思われる状況にある。												
今後の方向性	リピーターや愛好者のみならず、外国人旅行者も含め、すみだを訪れた方に関心を持ってもらえるかが重要であるため、北斎美術館の活用も視野に入れながら、展示方法や配置等、実施方法にさらなる工夫を凝らす。												

平成29年度 補助金評価シート

補助金名称	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金						主管課・係（担当）	
根拠法令	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金要綱						文化芸術振興課・文化行事担当	
事業概要	全国でも有数の「ものづくりのまち」として発展を遂げてきた墨田区において、伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRし、市場における作品の付加価値を高めていくことを目的として展示会を開催する。						5608-6180	
							事業の終期	
							平成37年	
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	職人による実演や体験型ワークショップを通じて、墨田区の伝統工芸を学ぶことができる機会は貴重であるため展示会の来場ニーズがある。							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	文化施策が重要性を増す中、伝統工芸分野を通じて「ものづくりのまち」すみだをPRしながら、優れた技術・技能を今後に継承していく本事業の必要性は高い。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	開催告知チラシの配布戸数				単位	戸
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		31,500	37	目標	30,000	30,000	30,000	30,000
				実績	31,100			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	31,000	31,000	31,500	31,500	31,500	31,500
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。目標値は、配布戸数は限られた予算を考慮して設定する。						
		目的に対する指標 (成果指標)	指標	展示会場への来場者数				単位
	最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
	9,000		37	目標	8,000	8,500	8,500	8,500
				実績	8769			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
	目標		8,500	8,500	9,000	9,000	9,000	9,000
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。							
	財政面 〔決算額〕 (単位：千円)		H28	H29	H30	H31	H32	H33
		1,000						
H35		H36	H37	〔予算の傾向〕 平成29年度以降は補助金額が減額となる予定である。				
施策への関連性	伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRすることで、市場における作品の付加価値を高めていくことで新たな文化・芸術の発展につながる。							

1 必要性・妥当性			5	
区が実施する理由があるか	ある	目的が政策上の位置付けと整合しているか	している	
目的・内容等が社会経済情勢に合致しているか	している	不特定多数の利益の増進に寄与するか	している	
区民ニーズに即しており、公益上必要と認められるか	認められる	個人利益に対する利益に留まらず適切な対象範囲に波及するか	する	
区の施策目標の実現に寄与しているか	している			
判断理由				
職人による実演や体験型ワークショップを通じて、墨田区の伝統工芸を学ぶことができる機会は貴重であり、区が事業を支援していく必要性はある。一方で、類似事業との差別化が難しくなっていることから、目的・内容を見直す余地がある。				
2 有効性・適格性			4	
経費、補助額の算定根拠が明確になっているか	なっている	交付機会の公平性や負担の公平性が確保されているか	されている	
区が負担する割合として適切か	適切である	補助団体の活動内容が目的と合致しているか	合致している	
任意団体に対する補助の場合、自立化を促進するものであるか	ない	補助目的及び金額に見合う実績等の効果があるか	ない	
補助目的が既に達成されていないか	されていない	目標及び見込まれる効果が明確か	不明確	
団体等が自らの財源で賄う範囲と区の支援範囲が明確となっているか	なっている	効果測定の具体的な目標・指標が明確か	明確	
判断理由				
会場である「すみだまち処」の来場者数が減少していることに伴って、本事業の来場者数実績も年々減少している。その一方で、補助額を現状よりも縮小してしまうと、さらに来場者の減少につながってしまい、事業継続が困難となってしまう。				
3 効率性・経済性			4	
類似する補助事業がないか	ある	地域社会や区民等へ波及効果があるか	ある	
手続が過度に煩雑でないか	煩雑ではない	個人の経済的負担軽減の場合、実質的公平性を考慮しているか	該当なし	
目的に対する区の負担割合が適切か	適切である			
判断理由				
当区産業振興課及び地域教育支援課による「伝統工芸保存会」「パルティール」等への類似支援事業が存在するため、差別化・役割の明確化が必要である。				
【評価結果】				
改善・見直し				
中間・最終年度の講評	産業振興課や地域教育支援課による「伝統工芸保存会」「パルティール」等への支援事業が存在しており、本事業を含め各々の役割が明確でないため、それぞれの事業効果が相殺されてしまっていると思われる現状にある。			
今後の方向性	リピーターや愛好者のみならず、外国人旅行者も含め、すみだを訪れた人にいかに関心を持ってもらえるかが重要であるため、北斎美術館の活用も視野に入れながら、展示方法や配置等、実施方法にさらなる工夫を凝らす。			